

大阪府北部、豊中市の北摂エリアにある「シャレール東豊中」。

梅田駅まで約30分の好立地にある大型団地で、都市住民による自然環境をマネジメントするコミュニティのデザインとして「2008年グッドデザイン賞」を受賞したことから知られる。

心地よい秋晴れに恵まれた11月6日。紅葉の始まった公園の一角にある団地集会所に、新たなコミュニティスペースが誕生した。公募で「ぼん・しゃれーる」(フランス語の「よい」×「本」×「ボンジュール」+団地名シャレール)と名付けられたガラス張りの施設前では、キッチンカーの出店やUCC珈琲による試飲なども行われ、多くの家族連れで賑わっていた。

「この施設は、『本でつなぐコミュニティ』をテーマに、地域に住む多世代の方々が、いつでも本に触れあえ、集えるスペースとして集会所を改修してつくりました。廊下の本棚には、豊中市立図書館から寄贈していただいた本

曜日に会を開いています」

その活動を知ったURの杉田らは、「長く続く団地での活動に寄り添いたい」と、もともと廊下にあった本棚の活用を提案。今回のリニューアルにつながったという。

杉田とともに事業を担当する川村大輔は入社1年目。

「リニューアルでは、気軽に立ち寄ってもらいたい、とエントランスやウッドデッキにベンチを置きました。皆さん休憩したり、おしゃべりしたり、すごい人気です。きれいに使っていたらいいですね」と声を弾ませる。

○ 団地を地域活性化の資源に

「ぼん・しゃれーる」には、団地図書館のほかにもう一つ、重要な役割がある。週に2回、生活支援アドバイザーがカウンターに在席。高齢者の相談に応じたり、入居者同士の親睦を深めるお手伝いを行う。担当の生活支援アドバイザー、三浦貴子さんは「気軽



近隣から寄贈される本も増えてきて、子ども大人も楽しんで読書している。



阿部民子 text by Tamiko Abe
Illustration by Shigeyuki Sakata

本で、人と地域、思いをつなぐ 新たなコミュニティスペースが誕生

大阪府豊中市 シャレール東豊中
本でつながるコミュニティ〜ぼん・しゃれーる〜
2022年●令和4年〜

に加え、地域の方々からの寄贈本など約300冊を並べ、貸出や閲覧ができるようになっていきます。学習スペースや小さなお子さんが遊べるキッズスペースも設け、地域の方々にもいつでも利用していただきたいと思えます」と話すのは、団地を管理するUR都市機構の杉田恵子だ。当日開催されたオープンイベントでは、施設を紹介を兼ねたクイズ大会やオリジナルしおり作りのワークショップ、スーパーボールすくいなども開催。小学校1年生の男の子と5年生の女の子と参加していたお父さんは「子どもたちは大好きな漫画があると喜んでくれるし、デスクもあるので、テラワークにも利用できそうですね」と楽しげに話してくれた。

にお越しいただいて、高齢者やご家族の心配事をお聞きしたり、赤ちゃんと閉じこもりがちなお母さんのお友達づくりのきっかけにもなれば、学校帰りのお子さんも本が読めるし、勉強もできる。ここに来れば誰かに会える、誰かと仲良くなれる、そんな場所にしていきたいですね」と話す。集会所のリニューアルを機に始まった、シャレール東豊中の新たなコミュニティづくりの取り組み。同団地では、同時に「たのしみつなぐプロジェクト」

○ 地域ボランティアの志を継承

2004年から管理開始となったシャレール東豊中。以前の東豊中第一団地の建て替えで、「ぼん・しゃれーる」が入る中央集会所もその際に建て替えられたものだ。住民には以前の団地から住み続ける方も多く、「ご自分たちが暮らす団地や地域を愛する気持ちがとても強い」と杉田は話す。

今回の「本でつなぐコミュニティ」というコンセプトも、この団地に以前からあった地域ボランティア「仲よし文庫」にちなんでいる。

「仲よし文庫」メンバーの一人で、現在もシャレール東豊中に住む渡辺さんは、2冊の寄贈本を持ってオープンイベントのお祝いに訪れていた。忙しく働く杉田の姿を見て「ほんまに、よう頑張った！」と笑顔で声をかける。

「入居当時の団地は憧れの住まいで、子育てに熱心な方々が集まっています。そんなお母さん方が、自分の子どもだけでなく、他の子どもたちにも読書の楽しさを伝えたい、と自分たちの本を持ち寄り、ごさを敷いて読書会を開いたのが会の始まりです。今は地域の方も加わって、この集会所で毎週木

クト」も始動。週に1回、UR職員が集会所に在席し、地域住民の「楽しみ」や「つながり」を軸にしたイベントや企画を行うという。10月15日には、地域をつなぐ「食」イベントとして、宮崎牛のキッチンカーなどが登場。これからも、様々な民間企業とコラボ、「ぼん・しゃれーる」とも協働して、地域の活性化に向けて活動を行う予定です。「シャレール東豊中は、外観は新しいですが、昔ながらの温かさが残っています、多世代が生き生き活動している団地です。リニューアルにあたっても、自治会さんや地域で活動されているみなさんなど、多くの方々に団地のルールや歴史を教えていただき、地域力にすぐく助けていただきました。今日が新たなスタートなので、今後も地域の方のお声を聴き、団地を地域の資源として生かしながら、いい空間にしていきたい」と杉田。本をきっかけに人をつなぎ、思いをつなぐ活動は、団地と地域の人々に寄り添いながら続いていく。